

学力向上推進拠点校指定事業 連絡協議会

5月27日（月）に学力向上推進拠点校指定事業連絡協議会を実施しました。福岡県教育庁教育振興部義務教育課、福岡県教育庁北九州教育事務所、直方市教育委員会、各地区拠点校の先生が集まり、5校時に授業参観していただき、その後、授業整理会・連絡協議会を行いました。

着眼① 単元や授業過程における、学習意欲を喚起するための工夫

着眼② 「一人学び」や「協働学び」における、自分の考えをつくり、広げたり、深めたりするための ICT 機器の効果的な活用

☆ 数学科（1年）

単元名：正の数・負の数

主 眼：正の数と負の数を時差の計算という身のまわりの具体的な場面で利用することを通して、そのよさに気づくことができるようにする。

着眼①：学習する内容が現実と関連することを実感させ、学習意欲の喚起を図るために、現実社会の中にある「時差の問題」について取り上げる。

着眼②：「一人学び」において、確実に自分の考えを作ることができるように、ロイロノートでヒントカードを配布する。【情報の整理】
「協働学び」において、級友の考えを参考にしたり比較したりできるように、ロイロノートで解答を提出させ共有する。【考えの共有】

☆ 社会科（2年）

単元名：日本の諸地域（九州地方）

主 眼：九州地方の「消滅可能性自治体」の場所を地図上に表し、その分布の特徴を自然環境や交通などの他の事象と関連付けて説明することができるようにする。

着眼①：単元の導入において、生徒の興味関心を高めるために、時事問題を活用する。

着眼②：「消滅可能性自治体」の分布の特徴を捉えやすくするために、ロイロノートの共有機能でグループごとに作成させる。人口とは違う事象と関連付けて特徴を考察することができるようにするために、作成した地図に自然環境が書かれた地図を重ねる。【情報の整理】

☆ 理科（3年）

単元名：運動とエネルギー（仕事）

主 眼：道具を使った場合と使わなかった場合の仕事の大きさを比べ、仕事の原理が成り立つことを説明できるようにする。

着眼①：なぜ手ではなく道具を使うのかに着目させ意欲を喚起させるために、滑車が日常生活で使われている場面を動画で確認し、実際に滑車を使って物を持ち上げる。

着眼②：「協働学び」において、生徒が他の人の意見を取り入れながら自分の意見を改善することができるようにするために、ロイロノートを用いる。【情報の整理】

